

Book Agent 本のセールスマン

試読版



bos_021 死魔と英霊

どうも『総門谷』シリーズにヒントを得て、『Fate／stay night』は作られているようです。歴史上の人物が蘇り、その人物の死因と同様でなければ、倒すことができない「死魔」が『総門谷』の秀逸なアイデアですが、それにヒントを得たと思われます。

もうひとつ、須賀原洋行さんの『うああ哲学事典』も参考にしていると思われます。作中、哲学的タームが用いられますが、微妙に国語（ラング）とは違いますね。

bos_022 クラカナちゃんの旦那は松重豊？

『孤独のグルメ』と『花のズボラ飯』はほぼ同時期に、ドラマが放映されていましたね。ドラマ版の『孤独』の井之頭五郎は松重豊さんです。

そして、『ズボラ飯』の花は倉科カナちゃん。

花はいつも、家にいない旦那さんの目を盗んで、テキトーなごはんを食べます。それがズボラ飯ですが、旦那さんの誰かは電話口で、「ゴロさん」と言っているのもうわかりますね。

つまり、クラカナちゃん演ずる花の旦那さんは、松重豊、なのでした。

ご存知の通り、パラレルワールドの話ですから、作中の相関関係と

bos_023 少年漫画にて夏目漫翁の影あり

マンガコラムミストの夏目房之介さんには、マンガ批評の著作が多く、その中には、『消えた魔球』があります。

この夏目さんのマンガ評論を参考にして、作られたとおぼしき作品に、ガモウひろしの『ラッキーマン』と『バクマン。』があります。

『プロゴルファー猿』を取り上げた回に、「主人公の運が対戦相手の実力よりも上回る」ということを分析しているのですが、これが『ラッキーマン』の元になったのではないのでしょうか。

さらに、暗殺ゴルファーが死を間際にして滔々と語るシーンの生真面目さに笑ってしまうという夏目さんの感想は、『バクマン。』の「シリアスな笑い」といえます。

－追記－

新潟市の中央図書館に行けば、『プロゴルファー猿』を読めます。

県内の方は、利用してみたいかがですか。

bos_024 リズ&どーにやつ

『どーにやつ』の作者は『ファイアーエムブレム 覚醒』のキャラクターデザイナーでもあるのですね。パッフルスタイルの女の子リズを描く人間が、ドーナツに猫の頭と手が生えたフシギ生物を描く人間と同一であるとは、思えませんね。

それから『どーにやつ』というマンガは、SFなのか、コメディなのか、それとも何か大きなことが隠されたサスペンスなのか、よくわからないマンガですが、ギャグについては信用できると思います。

bos_025 年表モノ

ユリイカの増刊号にも特集された永野護さんの『ファイブスター物語』は、年表を連載前に開示して、その年表にそって物語が進んでいく、という珍しい手法をとっていることがよく触れられます。

同じように年表を足がかり、手がかりとするなら、『風雲児たち』が意外にも似ている気がします。アマテラスの星団統一からエピソードが始まるように、関が原の合戦・大阪冬夏の陣を経て徳川体制の成立を『風雲児たち』は描いていますね。

人気のあるキャラクターも、史実として死んでしまう、それこそ平賀源内がどんなに面白くて、魅力的であっても歴史上、殺人を犯して獄中で死にます。史実無視のテレビドラマなら、『天下御免』のように気球に乗ってヨーロッパへ行くのですが。

二つの作品は、伏線も実時間で数年経たないと回収されません。

保科正之の遺言を松平容保がまっとうするのが、いまだに描かれていません。（『八重の桜』でその点に触れていないのは、歴史ドラマとしてまったく評価に値しない）

年表という「重力」によって、同じ自由落下運動をしてしまう…着地として人気キャラクターの死が訪れます。

両作品を年表モノとして読むのは、面白い試みだと思います。

—追記—

アニメ映画を作るために六年間も休載するのは、コミックマーケットに新刊を出すために、『風雲児たち 幕末編』の連載を一回休むようなものなのではないでしょうか。

bos_026 反面教師モノ

最近、少年マンガには反面教師モノといえる作品群があります。

先鞭を切ったのは、『さよなら絶望先生』で、一言で説明すると「壮大なお葬式ごっこ」と言えるでしょう。

少年チャンピオンで連載していた『ガキ教室』は半面教師的ですが、教育問題に体当たりで挑んでいる姿から、何かとコトナカレ主義を貫く「教師たちへの反面教師」となっています。

『暗殺教室』は暗殺者のタコの怪生物が教師で、彼を殺害することで進級できるという、ある種のエディプス・コンプレックスものなのではないでしょうか。

一番はやはり『勤しめ！仁岡先生』ですね。

この中で一番面白い。

子供が嫌いな教師である仁岡先生が、なぜか子供たちに慕われる話ですが、それが面白い。

しかし、これらの一連の作品を読んでも、今反面教師モノがたくさん出てきた理由や背景がわかるわけではありません。

ちょっとした、謎ですね。

bos_027 書店員モノ

マンガでは、書店員モノとくくれる作品群がありますね。

『ひまわりさん』に『本屋の森のあかり』、そして原作がミリオンセラーの『ビブリア古書堂の事件手帳』。原作書である文庫の裏表紙のあらすじの記述から、栞子さんが安楽椅子探偵であることが、わかりますね。

つまり、この三作は書店員モノですが、ジャンルは違います。

『ひまわりさん』はヒューマンドラマ・青春ドラマでしょう。

『本屋の森のあかり』はお仕事モノといえます。

『ビブリア古書堂の事件手帳』は前述の通り、ミステリーです。

そして『ひまわりさん』以外は、実際の書籍の話題が出てきます。

そこがビブリアマニアをくすぐる点ではないでしょうか。

bos_029 奇術師たちのめくらまし

吉野弘幸さんと大河内一楼さんと巧舟さんの共通項といえば、大学で同じマジック研究会に所属していたことですね。

吉野さんと大河原さんは先輩後輩にあたり、『コードギアス』『ギルティクラウン』でコンビ

を組んで、脚本を書いています。二人は物語・作劇のセオリーを踏まえた上で、あえてそれを踏み外すようなパターン破りを得意とするところがあります。

しかし、巧舟さんの場合、「社長が訊く」での話しに拠れば、まったくセオリーを知らずにシナリオを書いたので、『逆転裁判』第一作となったそうです。

それでもマジック研究会に所属していただけあり、三人とも奇術のようなシナリオを築き、トリックが仕掛けられています。

巧舟さんはまさにトリックをテーマにした『ゴーストトリック』をリリースしています。

—追記—

私はイチロウを許しません。彼を野放しにしたせいで、非常に迷惑をしています。「クズ箱のゴミを拾ったらダメ！」ということが、あちらにはわかっていないようです。

bos_030 大正モノ

大正モノというくくりには、まず事前に説明が必要です。

それは『サクラ大戦』と『はいからさんが通る』の存在ですね。

少年マンガの方では、テレビゲームで『サクラ大戦』が出てきて、この作品があることによって、大正を舞台にする作品は、競合するのをためられるのか、企画を回避しているようですね。

たいして、少女マンガの方では『はいからさんが通る』以後に何十年も大正を舞台とした作品が現れませんでした。

最近、新潟県出身の作者の『大正ガールズエクスプレス』などの作品が現れ始めました。

そして、女性向けの『サクラ大戦』である『サクラ大戦奏組』もあります。

これは『はいからさんが通る』から、あまりにも時間が経ちすぎたために、もう一度大正を見直す時期に来ているのでしょう。

蛇足ながら『ちろり』は大正モノというより、明治時代の文明開化中の日本を舞台としていますが、大正との歴史的関係を考えると、読んでおいて損はないですね。

bos_031 まずはリーダーからはじめよう

電子書籍を読む場合、メディアタブレットを手に入れる前に、リーダーを手にするのがいいですね。

モノクロの書籍であればeインクで十分です。ですがソニーのリーダーは負け続けてきた歴史の産物です。編集者として有名な松田哲夫さんが力を入れた時期もありました。果たして、これが

ら本命であるアマゾン・キンドルを脅かす存在になるのかは、わかりません。

本サイトのアフィリエイトリンクは、できるだけキンドル版にしています。

理由はダウンロードさえすれば、すぐに読めるからです。

アマゾンは電子書籍にかなり力を入れています。

これが一番、本物になると考えられ、本命の二重丸を記せますね。

コボは、楽天がギャンブルに出てしまった感が拭えません。

いったい、何に勝機を見出したのでしょうか、まったくわかりません。

変り種としては、ニンテンドー3DSの「どこでも本屋さん」のソフトでマンガを読むのがありますね。穴馬といえるでしょうが、3DS LLでないと見れたものではありません。

さて、私はiPadを常用しています。

これが一番ですねえ。

bos_032 信用できる審美眼

いしかわじゅん先生といえば、古くは先鋭的なギャグマンガ、現在はネコマンガやホームタウンの吉祥寺を舞台にしたマンガを描いています。

『ミミ正』で印象的なのは、羽海野チカさんが、熊のぬいぐるみではなかったことですかね。

『漫画の時間』上梓後はマンガ評論家としての地位を確立しました。

特に『漫画の本棚』には、驚異的なエピソードが存在します。

先生は『難波鉦異本』を描いた作者もりもと崇さんは、山本康人さんのアシスタントをやっていたのではないかと、作画技法から考察されています。

試しに『難波鉦異本』を読んでも、「この人は山本康人のアシスタントをしていたらう」とは、思いません。

いしかわじゅん先生の推察どおり、もりもと崇さんは山本康人さんのところにいたそうです。

これだけの審美眼を持ち合わせている人物に「絵がうまくない」と言われてしまうと、どうしようもありません。森薫さんの絵の評価は、高くないことを書いておられましたが、実は私も先生と同じ印象を持っていました。森さんについて、私は恨みや何もありませんが、いしかわじゅん先生と同じ意見だったのです。

もし、それでも審美眼に疑いを持たれたら、是非、一連のマンガ評論の書籍の一読を薦めます。

一追記一

島本和彦の弟子が矢上裕と私は思いますが、裏付けはとっておりません。

『BD（ベーデー）』、サブタイトル「第九の芸術」のこの本は池袋のジュンク堂で一度手に取り、読みたい読みたいと思っていながら日は経ち、この度再び手に取る機会を得て、一読しましたがなかなか面白かったですね。

この本でいいなと思うのは、なんといっても豆知識的な情報です。

メビウスの娘の名がかのナウシカ姫から取られていたり、ブルーベリーのモデルが運動神経抜群の名優ジャン・ポール・ベルモンドであること、パトリス・ルコント監督もかつてはBD作家であったといいます。

こういうのは、実は映画好きがうれしかったりします。

—追記—

そういえば、『タンゴ』のレストランでの件（くだり）は、『吼えろペン』でもあるのですが、これは『燃えろペン』でのエピソードのセルフリメイクなので、島本和彦さんの方が先です。

近年は夏目漱石について、いろいろな多角的な見方がされています。

『先生と僕』のように4コマで漱石界限のマンガ化があれば、夏目邸に出入りしていた寒月君と寺田寅彦についての新書が出て、孫である夏目房之介さんが漱石の著作に触れた『孫が読む漱石』、はたまた小説には『漱石先生大いに悩む』などがあります。

この小説の作者である清水義範さんはあとがきに「『坊ちゃん』的な明るい漱石像がどこへいってしまったのだろう」のようなことを書いていたと思いますが、そのような則天去私を気取った漱石像を覆したのは高橋源一郎氏の話では江藤淳さんです。

江藤淳さんが『漱石とその時代』を書いたことで、コペルニクスの転回の漱石像が広まったのです。今現在の世の中に「まったく影響を及ぼさない文芸評論」の時代からは隔世の感があるのは否めません。

また、夏目さんの指摘どおり、海外では漱石は知られていません。翻訳はされていますが、大学で日本文学を専攻しているなどの理由がなければ、ほとんど読まれていません。

したがって、場合によっては漱石をジャパニメーションである『青の文学』シリーズの「こころ」の原作者として、海外のアニメユーザーに認知されている方が多くなる可能性もありますね。

私は本のセールスマンですから、自著の営業もするのですよ。

『ガタニイ・ビレッジ・ヴァンガード』は、そんな私のジャズ喫茶小説です。

村上春樹はかつて、ジャズ喫茶のマスターをしていて、「一生分のおしゃべりはそこでした」と語っています。

そして、ゴーストとしてのジャズ喫茶のマスターが出てきますね。

もちろん、新潟市にはセルバンテスというジャズ喫茶はありません。しかし、もう一つの現実には、たしかにセルバンテスは存在しているのです。

そこでは怪獣（原発事故や震災の暗喩）の捧げられるお供えとして、ジャズが奏でられ、彼はデレク・ハートフィールドとして、三人の「小説家」の話をします。

新潟のジャズ喫茶については、『ジャズ喫茶論』を挙げましょう。

—追記—

大塚英志と藤原カムイの『アンラッキー・ボーイズメン』はほとんど参考になりませんでした。

電書 『ガタニイ・ビレッジ・ヴァンガード』 <http://p.booklog.jp/book/26020>

bos_036 物語工学で『まおゆう』がわかる

新城カズマさんの『物語工学論』の内容を実践しているようなのが、『まおゆう』ですね。

二人の主人公が7つのキャラクター類型にほぼあてはまります。

「さまよえるは行者」である勇者が「塔の上の姫君」であった魔王と出会い、「時空を越えた恋人」同志となる。

そして、“丘の上の向こう”という目標に達するために障害を越えるため、「二つの顔の男」に、あるいは「あぶない賢者」になる。

この物語で女騎士が「武装戦闘美女」であるのはいいとして、「創造主を滅ぼすもの」にあたるのは、いったいなんなのでしょうか？

いち早く読みたいのであれば、まとめサイトをオススメします。

最後に付け足すのは、『物語工学論』には、経世済民のことについて、少し語られています。

bos_037 タカノハシの冒険島

『BTOOOM!』は無人島と思わしき場所で爆弾を持たされたサバイバーたち（ある意味文字通りテレビ番組の「サバイバー」である）が、爆弾で他のサバイバルを行う人間を爆殺して島を出よ

うという、大変殺伐とした内容となっております。

よく言われるとおり、ハドソンの『高橋名人の冒険島』の「冒険島」を舞台に、やはりハドソンの『ボンバーマン』の爆弾で対決する話ではあります。歴史上の人物から拝借された登場人物名も、架空の人物から参照された登場人物が活躍する『天外魔境』のようなものと考えれば、納得できます。

しかし、皮肉なことに作中のオンラインゲームの分野では、ハドソンは成功しませんでした。そして現在では消滅しています。

アニメ版では衝撃的配役として、高橋名人のパロディである鷹嘴に高橋名人が声をあてるとい、驚くべきことになっています。

もし、ハドソンが健在であったら、このようなことはなかったでしょう。

ハドソンはさくまあきらがホームページで恨み節を語っている通り、ある種のコラボレーションなどには、消極的どころか妨害に似た対応を取っていました。おそらく、ハドソンにオファーをしたら、高橋名人は鷹嘴に声をあてることはなかったでしょう。

かつてハドソンのゲームのユーザーであった私たちは、亡きハドソンのレクイエムが奏でられた作品と受け取っておきましょう。

bos_038 大島家

『まんがかぞく』を読むと、大島一家が全員マンガ家であることに、まず驚きます。

武田信玄のマンガを描いていた大島やすいちを父に、母をレディースコミックの川島れい子に持ち、四コママンガ作家の三島弥生が妹です。

マンガ以外で家族に共通なのは、ゲームを趣味とするところ。ゲームプレイ中のお父さんの言葉にしみじみとします。

しかし、このことに触れたなら、あのことにも触れなくてははいけません。

『四姉妹エンカウント』で、『ファイナルファンタジー13』のライトニングというキャラクターと、『スーパーマリオ』シリーズのヨッシーさんをからませたパロディに、スクウェアエニックスがクレームをつけられてしまい、一時休載して、雑誌「ヤングガンガン」の『同棲レシピ』も打ち切りになりました。

マンガ家の人は商業的な媒体で、愛がなかったら、パロディにしません。大島永遠さんは、『ファイナルファンタジー』に愛があったはずです。そして、家族でゲームを遊ぶ人にこんな仕打ちをするなんて、ゲームユーザーとして、すごく大事なものを傷つけられました。

以来、私はもう、『ファイナルファンタジー』をプレイしないことを胸に誓いました。

—追記—

新創刊された「ビックガンガン」で、大島さん新連載がありました。とりあえず、よかった

です。

と、書いていたら、私の身に火の粉が振りかかりました。

サイト 「拡散希望！これが最後の幻想だ！」 <http://www.pixiv.net/novel/show.php?id=4372307>

bos_039 おっちょこちよいだよ、みさきちゃん

末次由紀さんと言えば、トレース問題を起こしたとき、自身のホームページでハンドルネームmisakiという別人をよそおって弁護する書き込みを書き、あとでIPアドレスから本人であるとバレてしまう話が『封印漫画大全』にて知りました。

非情に好感がもてます。

おっちょこちよいであり、人間味があって、悪気があって何かする子じゃない。

人気作『ちはやふる』でも、太ってしまったあるキャラクターの太った理由が、アイスを食べたから、ということになっていますが、アイスを食べても太りません。今現在では氷菓によって体温が下がり、カロリーを消費してしまうので、太らないものであると考えられています。

おっちょこちよいですねえ。

『ミミ正』を読むと、いしかわじゅん先生と交流があるらしいのですが、何か粗相をしでかさ
ないか、大変心配になります。

そんなみさきちゃんを応援してあげてください。

bos_040 剣道モノ？

『六三四の剣』から勃興したスポーツマンガの小区分・剣道モノはなでしこジャパンよろしく、女子の活躍が華々しいですね。

その嚆矢といえる『BAMBOO BLADE』は人物配置が『六三四の剣』に似ていて、実は剣道マンガの正統を継承していることがわかります。スピンオフ作品あるいは続編として『BAMBOO BLADE B』があり、まだ物語に先がありそうです。

原作は同じでも少女マンガと青年誌とのジャンルの違いが出る『武士道シックスティーン』も女子が主役で、これは剣道版『バッテリー』というのは、大雑把すぎる評価ですね。

さらには、正確には剣道モノとはいえないのですが、『竹刀短し恋せよ乙女』は竹刀を武器に戦うバトルマンガであり、広義のそのまた広義の剣道モノといえるでしょう。しかし、語尾に「？」は付けておきたいですね。

さらに、剣道からやや離れたところにあるマイナースポーツ、スポーツチャンバラという題材を略称した『すぽ☆ちゃん！』では、槍は一对多数でも十分渡り合えるというのは、目から鱗でした。

このようにバラエティー豊かな剣道モノ？ に共通しているのは、やはり宮本武蔵と佐々木小次郎の二強剣豪に基づかれたキャラクターが必ずいる点ですね。その起源は国民作家吉川英治の名作から、というのは誰の目から見ても明らか。

著作権が切れた今でも、その影響の強さが窺えます。

bos_001 わたしたちの中の光

『光の教会 安藤忠雄の現場』は建築家の安藤忠雄さんの傑作、光の教会製作時取材したノンフィクションです。

ここでまったく関係なさそうなドラクエを持ち出します。ドラクエVには、北の教会という建物があります。

その教会の二階は、ちょうど光の教会を反転させたような十字架となっています。

たぶん堀井さんは安藤さんのテレビ番組を観て、教会を方眼紙で書いたと思います。

ー補記ー

ドラクエVの製作中に、安藤さん取材したNHKのドキュメント番組を、堀井さんは観たと思われます。

bos_002 藤森建築の前衛性

路上観察学会の長、藤森輝信さんは、建築史家でした。しかし、ル・コルビュジェの屋上庭園に異を唱えて、壁面を緑化するという提唱は80年代末から90年代にはあまりにも前衛すぎて受け入れられませんでした。

今では、夏場にゴーヤーを栽培して節電志向で緑化は当たり前になってしまいました。

タンポポハウスからニラハウス、ツバキ城は、建築を植物で彩る、前衛にいつの間にか、時代は追いついていたんですね。

bos_003 自分の電書チャリマガ

東日本大震災後、義援金を寄付するために、チャリティーマガジンを作りました。とても残念なことですが、まったく売れませんでした。

それよりも、義援金が発生せず、被災者の支援にならなかったのが、心苦しいです。

しかし、これからの電子書籍の市場の拡大を考えると、「売れてもらわないとマズい」と思います。

電書『チャリティーマガジン』 <http://p.booklog.jp/book/25674>

bos_004 非日常的な『日常』

あらゐけいいちさんの『日常』は、なんだか多和田葉子さんの『かかとをなくして』を読んでいるような気分になっちゃいます。

そんな『日常』は不条理ギャグマンガなのですが、どこか愛着を感じてしまうキャラクターたちが囲碁サッカーをしたりしなかったりするマンガです。

電書『マンガレビュー 日常』 <http://p.booklog.jp/book/46342>

bos_005 ゲームの覇権は今

『世界ゲーム革命』を読むと、産業革命でリードしていた英国が工業国として斜陽を迎えた経緯と同じものを感じます。経営学者の吉森賢先生は教科書にだいたいこんなようなことを書いてます。

「英国が工業後進国であったドイツの躍進を探りに視察に行くと、宮殿のような大学で工業科学を学ばせていた。これでは工業力が追いつき追い抜くことも無理はない」

実はこれと同じようなことが日本とアメリカで起こっています。

アメリカではゲームに関わる学科を学ばずと自然科学や社会科学を学べるように大学がカリキュラムを作ってゲームに興味のある学生を招きいれています。

こういうことは日本ではできませんでしたから、今は海外のゲームが隆盛を誇っています。

bos_006 ニャル子の伏線回収ゲーム

二ノ宮和子さんは「最近の読者は伏線を理解できない」と言ったそうですが、伏線を予想し、回収することを主人公や邪神である美少女たちと共にドタバタを繰り広げる話の『ニャル子さん』があります。

これは伏線を理解できない読者に、伏線は回収するものという学習をさせていると思います。

そんなニャル子さんですが、コメディとしてちゃんと読めるものですから、面白いです。

bos_007 ごっこ遊びは楽しく悲しい

たとえば、「猫が運転するエアバスに乗らないと、京アニショップには行けないんだぞ」と冗談を言ったりするのは、テレビCMを真に受ける子供のごっこ遊びをしています。

そんなごっこ遊びの仕方をあらぬ方向にこじらせたのが中二病ですが、そんな『中二病でも恋

がしたい』では、ごっこ遊びの妄想の中で戦う女たちがいます。

もうひとつ『お兄ちゃんだけど愛さえあれば関係ないよねっ』は、兄弟愛を越えさせないために、主人公の双子の兄妹、秋人と秋子の周りにごっこ遊びではぐらかす人たちが集まる話、と言えなくもないです。

ごっこ遊びは、どこか悲しいものがあります。

遊んでいる本人たちは楽しくても、見る者を悲しくさせることもあります。

それに気づかずにごっこ遊びを続ける本人たちは、楽しい。

welcome to KYOANIshop <http://kyotoanimation.shop-pro.jp/?pid=51076025>

bos_008 二人の藤子不二雄

藤子不二雄さんのどちらが好きかで、ポピュラリティかクリエイターかが、わかってしまいます。もちろん、私は○にAさんの方が好きです。

Fさんの方は、大衆的人気はあっても、実力が認められていても、創作者には人気が無いようです。

でも、あるゲーム作家が「手塚治虫か藤子・F・不二雄、どちらがいいか」と問われたとき、「手塚治虫」と答えたそうです。質問した相手は「藤子・F・不二雄はずっと変わらず子供のために漫画を描けた。それはそれですごいことなんだ」と言ったそうです。

私は今、「コトバを食べる、ケモノ。」という漫画を描いています。それは「子供のためになるゲームを作ることすら出来なかった」ということを描くために、あるのかもしれませんが。すでに○にAさんの側に立っています。

『78才いまだまんが道を…』には、藤子・F・不二雄のことについて触れられています。他にも、少年マガジンに連載した『少年時代』が、完結するまでファンレターひとつ来ず、連載が終わると、感動したというお便りがたくさん届いたことが、胸を打ちます。

bos_009 作家を続けられる秘訣

清水義範さんは、知らない人にはまったく知られていない大衆作家です。

どのジャンルでも、実力者として評価が高くて、人気が無いのでそのジャンルに詳しくない人には、まったく名前を耳にしたことがないといわれてしまう人がいますが、清水さんはどうも、なんというか、その、それにあてはまる作家です。

「パスティーシュ小説の旗手」とプロフィールに書かれていても、なんのことかまったくわかりません。

「好きな人には好きな小説を書く作家」という紹介は、正しくないかもしれませんが、だいぶ

あてはまると思います。

超能力モノのジュヴナイル小説を皮切りに、まったく何も起こらない『柏木誠治の生活』（これも博多大吉さんを主演に映画にしてほしい）、日本の教育体制を風刺的に描くスペキュレティヴなディベート小説『虚構市立不条理中学校』、短編小説「パールのようなもの」、テレビコマーシャルのフレーズをおちよくった「インパクトの瞬間」など、キャリアが長いのでたくさんのジャンルの小説をバラエティー豊かに書いていますが、どれも珍味の味がする小説です。

つい最近は、夏目漱石や『ドンキホーテの末裔』などの文学関係に材をとったものもありますね。

エッセーも面白く、西原理恵子さんがイラストを描いていた「お勉強シリーズ」は、読書の箸休めになります。

ここまで読めばわかると思うのですが、誰でも読んで面白いという、決め手となるベストセラーが無いのが、清水さんを紹介する側が「難しいな」と思うところですね。

ただ、そこに清水さんが長年作家生活を出来た所以や秘訣があると思います。

ミリオンセラー作家は、作家としての寿命が短い場合が多々あるのです。

しかし、あらゆるジャンルが書けて、ベストセラーやミリオンヒット作が無いと、息が長く作家を出来ると思えます。具体的には、まったくわかりませんが。

私は清水さんの一番好きな小説のジャンルは何か、と言われれば、やっぱりユーモア小説ですね。

ちょっと、長くなりましたが、こんな感じです。

bos_010 ジョジョとゾンビ

『ジョジョの奇妙な冒険』の第一部「ファントムブラッド」では古の戦士をゾンビとして蘇らせる話があります。

『トンデモマンガの世界2』でジョジョフォロワーのマンガとして、『ゾンビ屋れい子』をあげていたのは、このことだったのですね。

また、荒木飛呂彦さんは新書で、ジョージ・ロメロ監督の『ゾンビ』は「無個性の集団が襲い掛かって来る」と評しており、第一部のゾンビが個性的なのは、この印象から反対に個性を前面に押し出していると思えます。

bos_011 家事からの解放は抜きにして

『家電の女』は面白いです。

私の2012年のベストに入ります。

しかし、年間のベストマンガを決めるカタログ本では上位に選ばれていないところを見ると、どうも私の目利きは「節穴」であったということですね。

関連する家電の本といえば長島有さんが『電化文学列伝』を著しているので、週刊文春のマンガ評にとりあげられるかということ、そうではありませんでした。

話は変わりますが、藤本由香里さんの『私の居場所はどこにあるの?』を読んでから、『家電の女』を読み返すと、

「家事はいったい、誰がするべきか」

という男女間の問題提起を感じます。

夫婦の場合、単純明快、『セキララ新婚生活』のように分担するもので、現代の生活であれば「夫」「妻」「家電」の家事三分の計で等しく家事を分けるのが、「孔明の罫」ではない得策です。

でも、そういう話は抜きにして、マンガを楽しんだ方が、一番の良策ですね。

bos_012 MAGについて

マンガ、アニメ、ゲームについては一応、私は答えています。

カルチャ・インフラにオウム・システム、幻説学については、他のサイトにアップしているので、そちらをご覧ください。

それにしてもゼロ年代後半になると、いろいろな人物がマンガやアニメ、ゲームについての著作を世に出し、消費者であるオタクにも言及するものがありました。

それらの著作の先駆けといえる、『オタク学入門』を紹介したいのですが、残念ですが正規品は手に入りにくい状態となっています。

ですので、お探しの場合は専門書店、新古書店となります。

サイト「MAG-RL」 <http://www.pixiv.net/novel/show.php?id=148808>

Go to real Bookstore

bos_013 は事情により欠番

bos_014 ワンス・モア・ヒロシーマ

漫画ゴラクでは途中でエピソードが終わったマンガもありますが、原発マンガにはいろいろとあります。

小林よしのりの『脱原発論』、鈴木みそさんの『僕と日本が震えた日』、こうの史代さんの『夕凧の町 桜の国』と、原発を、あるいは原爆を扱ったマンガです。

とくに『夕凧の町 桜の国』はヒロシマのことを描いていますが、フクシマのことが描かれている気がしてなりません。

3.11以後、『夕凧の町 桜の国』の読み方は変わってしまったのです。

もうひとつ、押井守さんの『コミュニケーションは、いらない』でも、原発設置の目的が書かれています。

最後にして記しておくべきことは、広島に原爆を落とされたのは戦争によって引き起こされたのですが、福島第一原発事故は日本が自らの手で福島に「原爆」を落としたのです。

—追記—

『うああ哲学事典』の「アダム・スミス」の回での「愚かな人間の手」は、図らずも福島第一原発事故を予見となっていますね。

電書『うああ哲学事典』「アダム・スミス」<http://p.booklog.jp/book/7918/read>

電書『マンガレビュー 夕凧の町 桜の国』<http://p.booklog.jp/book/21827/read>

bos_015 「東村 天才」

本当に東村アキ子さんは「東村 天才」と検索エンジンにかけて、ネットサーフィンをしているのでしょうか。

私は『健一レジェンド』が好きです。

『ひまわり』という題よりも、この健一氏のご活躍めざましいので、タイトルよりもサブタイトルの方をよく憶えてしまっています。

『天才柳沢教授の華麗なる生活』や『岸和田博士の科学的愛情』みたいなタイトルは、よく憶え間違いをさせていただきますね。

噂どおりなら、本のセールスマンを閲覧されたのでしょうか。「やりにくいなあ」

bos_016 小粋なじょし落語

アニメにもなった『じょしらく』はぜんぜん落語のネタをしません。でも、単行本の特別版のおまけCDには、落語をネタにしたものがあります。

と・こ・ろ・が、このおまけCD創作落語がYOUTUBEでは動画にされてアップされています。特装版を買った身としてはフクザツです。

そういえば、女流落語家といえば、柳亭こみちさんですね。一度は高座で聞いてみたいものです。

同人小説 火炎のような血染め太鼓 <http://www.pixiv.net/novel/show.php?id=1198906>

同人小説 デッド・●・ライブに出てくる天狗裁き <http://www.pixiv.net/novel/show.php?id=2814516>

bos_017 ガンダムマンガ百珍

ガンダムマンガというのは、昔はコミックボンボンの専売でありました。

それが、雑誌ガンダムエースの登場で、大きく変わります。

正統派の安彦良和の『ガンダム・ジ・オリジン』から、ギャグ色の強い『起動戦士ガンダムさん』『トニーたけざきのガンダム漫画』、さらに唐沢なおきの『犬ガンダム』にカルトな羽生生純『俺は生ガンダム』と、豊富なラインナップがあります。

ところが最近ではツイッターの「祭り」から連載となった『サンダーボルト』も出てきました。こちらは本家オリジナルのアニメで言えば『0083』に近いですね。

一番のオススメは唐沢なをきの短編「独房の中」なのですが。

bos_018 水平の軽音部に垂直のバンド

同じバンドを扱ったマンガでも、水平方向を向いているか、垂直方向を向いているかで、こうも違うものができるのかというのが、『けいおん!』と『BECK』ですね。

『BECK』が昔ながらの、ヒットしたスポ根モノの方程式をバンド活動にあてはめて、どんどん成り上がっていく、垂直志向の作品であったのですが、その「逆バリ」といえるのが、『けいおん!』です。

『けいおん!』はバンドのメンバーと仲良くやっていくことに意識が向いている、水平志向のマンガであって、どんどん成り上がっていく物語ではありません。

単純に野球マンガなら甲子園に出場して全国制覇を目指すマンガと、目指さないマンガであると、たとえられるでしょう。

高度経済成長期に歩みを共にしたスポ根モノと経済成長が横ばいで皆と仲良くやっていこうという、いわゆる日常系空気マンガと単純に分けてみた場合、二つの中間に位置するのがセカイ系ではないでしょうか。

それにしても、水平志向の『けいおん!』のインパクト（影響力）は大きい。

こちらをご覧ください。

・注記 「本電書では著作権上の理由などから山本画伯の『Light Music』は掲載いたしません。けて、面倒臭かったからではありませんから、画像・イメージ検索で独自に調べてください」

題名の通り、『けいおん!』のレフティ・ベーシスト秋山滯をモチーフした、一応日本画でしょう、そういうものが描かれております。

おそらく、『BECK』のコユキを画家が描くことはありません。

その点で水平の軽音部は垂直のバンドに勝っているのです。

一追記一

実を言うと、作者はキャラクターの足元を書き分けているようで、冷房負けする平沢唯はタイツをはき、夏場になると田井中律は素足で靴下はかないようです。そして、秋山澪と中野梓は黒いソックスを揃えているようです。

大変瑣末なことですが、『美味しんぼ』の鮎の絵で板前が仕入れないものを描いてしまったようなことが無いようにしてもらいたいです。と、書いても、掲載していないので、わからないと思いますが。

bos_019 世界蛇と亀山社中

ヨルムンガンドとは世界蛇のことですね。

中世ヨーロッパの世界観では、海の向こうには世界の縁をぐるりと回る、巨大な大蛇がいると信じられていました。

『ヨルムンガンド』はそんな海運の時代に戻るまでを描いた、ミリタリーアクションマンガといえるでしょうか。それで小林源文のマンガのようにユーモアが含まれているのですね。

主人公は武器商人に従う少年傭兵なのですが、武器商人で海運となると、坂本竜馬ですね。紙屋高雪さんは『ヨルムンガンド』は矛盾がテーマとなっていると、評しました。

坂本竜馬の歴史的評価も、実は信奉する側に矛盾を抱えています。

幕末の志士である人々を評価する人が正戦論者であるなら、矛盾はありません。しかし、多くは平和主義者でしょう。

坂本の亀山社中・海援隊などは海外から武器輸入をできない状態となった長州を薩摩が支援するために、スキームとして武器横流しに使われていた存在です。

西原理恵子さんが「坂本竜馬はテロリストだ」と言うのは、むしろ無理が無い。歴史学の見地からは学術的に正しい。

それはさておき、ヨナ君は以蔵のような存在、ポジションにあるのですね。

bos_020 町山さんの本

週刊アスキーの町山智浩さんの連載「本当はこんな歌」は、面白かったです。

洋楽の歌詞内容は具体的にどのようなもので、いったいどんな背景で書かれたのか、たとえば、「見つめていたい」が荒井裕美「待ち伏せ」や大黒摩希「あなただけ見つめてる」と同じストーリーソングなのに、何故か結婚式でかけられる歌であるとか、他の雑誌の連載と同じく、アメリカの狂った事情を日本にいながら知れるのです。

もう少し、連載を続けてほしかった。レーガノミクス時代に歌われた「リヴィング・オン・プレイヤー」が意外にも今の日本という時代を象徴する歌になってしまったなど、まだネタがあったと思われるのに、連載は終わってしまって残念です。

そこで、他の町山さんの著作を読むと、筆頭としてあげられるのが『アメリカ人の半分はニューヨークの場所を知らない』になります。地図を見ても場所がわからないということは、未来の目的地を見失っていると言えるかもしれません。

この著作を読んで、何故ポケモンバッシングが起きたのかの理由に、ひとつ答案があります。

バイブルベルトの福音派は聖書に書かれていることが全て事実と信じているので、進化論を子供に教えない教育方針をとります。彼らにとって進化するポケモンは、邪悪な生物なのです。

『ジャパニメーションはなぜ敗れるのか』で、ポケモン劇場版第一作の興行成績は成功といえるのに、第二作は半分に、第三作はそのまた半分になったと書かれています。おそらくですが、福音派がポケモンを子供たちに見せないように運動を行っていたと、考えられるでしょう。

『アメリカ人の半分はニューヨークの場所を知らない』にはリーマンショック後に「アメリカに不況は無い」と失言をして反感を買って大統領候補から落選したマケインのことが書かれています。

正直、私はマケインに大統領になってほしかったです。

彼なら、ホーチミンの場所を知っていて、ちょっとはマシなところへアメリカを導いてくれたと思います。

ラブラブROUTE 21を映画化したい

ちょっと長い話です。

『しあわせのかたち』を読んでいると、急に緑色のトレンチコートを着た男性と、つぎはぎのある服を着た女性の物語がはじまります。

作者である桜玉吉さんの日常を描いた日記マンガから、男女が同棲するマンガが、なぜかはじまるのです。

この田中ひさしと鈴森ひさこの物語である「ラブラブROUTE 21」はゲームで遊んだことを日記にするマンガに不定期に掲載されるようになってしまい、ついには読者人気ベストスリーまで輝く物語になります。

担当編集者の広瀬氏は「なぜ、暗黒舞踏同棲マンガが、なぜファミコン誌で人気に…」と嘆く。

おそらく、桜さんは同棲マンガに影響されて、「ラブラブROUTE 21」を描いたと思います。絵日記にも触れられている林静一さんの『赤色エレジー』、上村一夫さんの『同棲時代』、そしてほぼ同時代の作品である業田義家さんの『自虐の詩』を読み、「ほんの悪ふざけ」のつもりではじめた二人の物語が私の心に強く打つ。

映画にしたい。

映画にして、映画配給会社に損をさせたい。

主役のひさしは暗黒舞踏家なので、もちろん大森南朋さんですね。大駱駝艦主宰の磨赤児さんの息子が演じることになれば、ベストキャスティングでしょう。

ひさこは見た目が似ている上原美優さんがよかったのですが、亡くなられてしまったので、幼少期に貧乏体験をしている麻生久美子ちゃんが演じると、大変いい。

そうすると、メガホンを取る監督も、自然と三木聡監督に決まってしまうですね。

『ダメジン』から『亀は意外と速く泳ぐ』、『凶鑑に載ってない虫』『インスタント沼』まで、三木監督にコメディ映画を撮らせたなら、ちょっと敵う人はいないので、適任です。

それなら、岩松了さんやふせえりさんなどの三木作品に出てくる俳優さんたちを起用するのが、自然な流れとなります。

ひろこを好きな「かわいい坊や」が、『ダメジン』で投げっぱなしにされる吉岡秀隆クンで、「あなたといたら、ひろしがダメになる」という姫カットの女は見た目上、『熱海の捜査官』の栗山千明さんでしょう。

こうすると、単なるモブキャラクターにも力を入れたくなりますね。「SUPER HOBOKI」と書かれた帽子を被った人は、東京ダイナマイトのハチミツ二郎さんが演じ、レンタルビデオ店の店員はますだおかだの増田さんですね。

赤井樋はもちろん、六坂直正さんに21歳の青年を演じてもらいましょう。

作中で死去したひさしの父役として、遺影出演で磨赤児さんを登場させてみたい。（原作には無い暗黒舞踏家の悪者として豊原さんとか）

ここまで、キャスティングに力を入れると、大道具小道具、衣装にもこりたくなるのが人情で

すね。

緑色のトレンチコートや姫カットの女の紫のコートを、衣装さんが力を入れすぎるくらい、それこそワダエミさんが服を糸から製作して黒澤明監督に「そこまでやらなくていい」と言われるくらい、技術の粋を尽くして作るのです。

それだけではありません。

小道具にも力を入れ、二十本ぐらい束になったタバコで、灰皿にすいがらをいっぱいにする謎のギャグも再現してもらいます。

孵化しかかったヒナも、「ライオンをトラにする」や「シマウマの地肌はシマシマか」などで動物をいじめたテリー伊藤門下であったと、どこかで聞いたことがある気がするので、三木監督ならやってくれるに違いありません。

さすがに私は「絶対に用意してほしい」とは言いません。言われなくても用意するでしょうから。

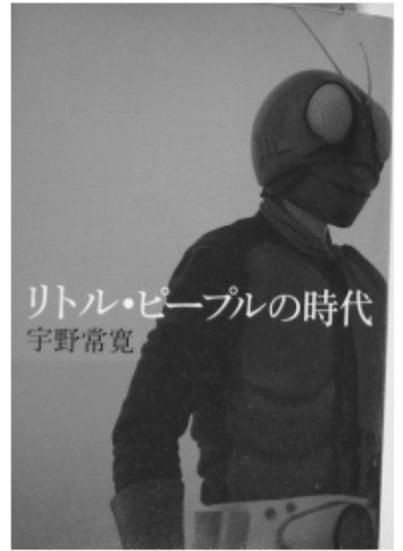
90年代の町並みが今も残っているところでロケーションをして、そこで町内暗黒舞踏大会を開くのです。90sでは、割とポピュラーにありましたね、町内暗黒舞踏会。不況の煽りで少し減りましたが。

最後は原作通り、赤井樋が「なあ、お、おれともう一度組まねえか？」とひさしに言ったかと思うと、急に暗転して「出演」の文字がスクリーンに出ます。

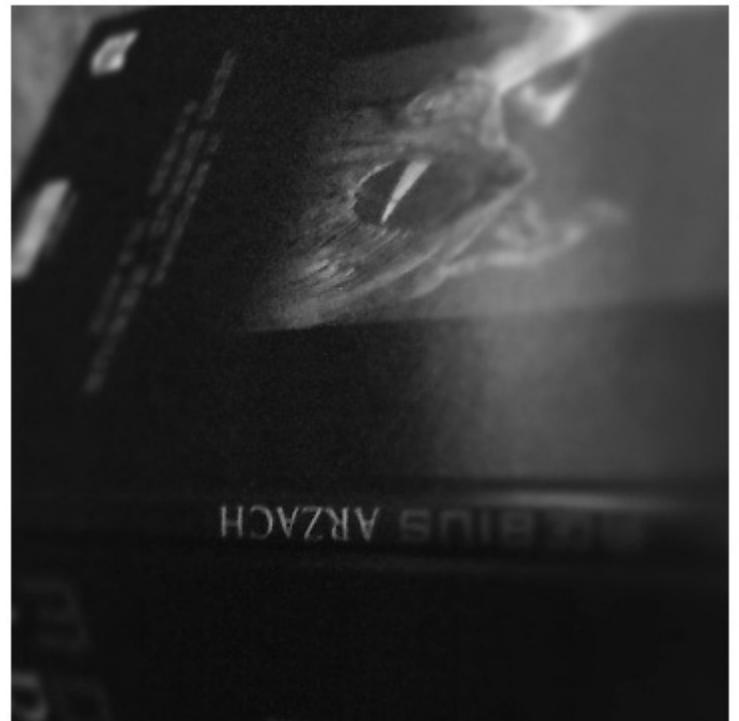
そしてキャスト&スタッフロールが終わると、「つづく」と前向きな終わり方でひさしとひさこが、朝日に向かって一続きのマフラーを巻いて歩いている絵が流れ、もちろん何も続かずに終わる…原作通り☆

ああ早く、屋台のおでんのナベに入った白塗りの大森さんを見たい。

Architecture
Product
System



Free



Book Agent

株式会社

読読版

Backtyle